第300号・2026年7月25日（土）
発行・東北大学職員組合書記局
〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目１－１
内線 片平（91）5029
022-227-8888(TEL)　022-227-0671(FAX)
https://tohokudai-kumiai.org/
編集・コア編集委員会

コア

＊働きやすい職場を
めざそう
＊大学はふたたび
戦争に加担しては
ならない

7月25日定期大会

大学の民主的運営
雇用の維持
働きやすい職場をめざして

国際情勢および東北大学の情勢が大きく変わっている状況ですが、大学の民主的運営、雇用の維持、働きやすい職場作りをめざします！

片山知史執行委員長

東北大学の国際卓越研究大学としての助成が開始され、２０２５年度の助成金は１５４億円という巨額なものとなりました。しかしなぜか、人件費が足りなくなるという事態を生じさせ、部局の教員ポイントを出させる方針が示されています。破格の数値目標の達成のため、また新たな教育カリキュラム対応のため、すでに教職員の過重労働が生じています。

２０２５年度の防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」に、東北大学の研究者によって申請した課題が２件採択されました。そもそも東北大学は、「本学研究者が研究実施者として応募することは認めない」という方針を示していましたが、学内議論を全く経ずにこっそり軍事研究を解禁してしまいました。組合は２０２５年９月に声明を発表し、当局に対して厳しく抗議しました。

定期大会の議案書では、毎年生じている雇止めや解雇の問題、病院不払い賃金問題、軍事研究問題などの経緯を報告し方針を提案します。組合組織については、組織率減少に歯止めがかかり、勧誘活動の成果が得られている状況です。引き続き積極的な勧誘活動、宣伝活動を展開し、組合員拡大のとりくみを提起します。支部における検討と積極的な議論をお願いするとともに、学内世論を引き起こし要求実現にとりくみ、さらには組合員拡大につなげていきましょう。

２０２６年期も、現場の要求に基づく雇用安定、待遇改善、要求実現、働きやすい職場作りのためにとりくむ所存です。大会における積極的な議論をよろしくお願いいたします。

（執行委員長　片山知史）

東北労金をご利用ください
※コンビニエンスストア等の
ATM引出し手数料
実質０円
※住宅ローンや車のローンなどの各種ローン
組合員は金利引下げ！

教職員共済
教職員のための制度です
教職員賠償　⇒総合共済
病気・ケガ　⇒トリプルガード
ケガ・賠償　⇒レスキュースリー
災　害　⇒火災共済
リタイア後　⇒年金共済
死亡・重度障害⇒新・終身共済
自動車事故　⇒自動車共済
・・・・自動車共済は
『事故あり等級表（二重の負担増）』なし

大学病院の医療職員の未払い賃金問題について

アンケートでは移動時間３０分以上

所定の制服や作業服を着用する職場は多いですが、その着替え（更衣）については、使用者から明示又は黙示に義務づけられていた行為であると認められる場合には、労働時間にあたります。着替えの時間を労働時間と認めた裁判例も多くあります。したがって、「着替えの時間について賃金が支給されていない」という場合には、未払い賃金が発生していると判断されます。

組合は２０１９年に東北大学病院の医療職員の方々にアンケートをお願いし、６７２名の方から回答をいただきました。その結果、着替えやカルテ読みの情報収集および更衣室からの移動に、平均すると始業前25分、終業後15分かかっていることが判明しました。そこで、２０２２年12月の団体交渉においてその事実を質したところ、着替えは労働時間に含まれることを当局が認めました。すなわち長年、着替えや情報収集に費やしていた時間については、賃金未払いだったということです。当局は2024年12月、ようやく支払いの方針を示しましたが、着替え分のみの1日あたり10分間分、しかもたった1年間分の支払いでした。着替えだけでも前５分、後５分では到底足りないでしょう。

もちろん組合は、アンケートに基づき一日あたり40分間、また賃金請求権の消滅時効期間を参考に3年間分の支払いを要求しています。２０２６年3月の団体交渉において組合は、要求を引き下げる考えはないが、まず10分1年間分を支払うよう求め、いつ支給するのかを問いました。しかし当局は、組合と妥結しなければ支払わないと発言。「組合が妥結に応じないから」という脅迫的な姿勢を示しました。

そこで２０２６年５月に再び医療職員へのアンケートを行ったところ、５０９名からの回答があり、今でも着替え、移動時間に30分以上を要していることが判明しました。組合は、顧問弁護士や労基署とも相談しながら、早期の支払いを要求していきます。

（執行委員長　片山　知史）

第７１回日本母親大会in宮城

9月12日（土）・13日（日）

コア３００号発行おめでとう

㊗私は87・88年度の執行委員長を務めました。一色刷りの硬い感じの『東北大職組新聞』に、88年1月から『コア』の愛称が付いた時です。今はカラーで写真も多い新聞に変わりましたね。でも、変わらない点もあります。それは学内や他大学の正確な情報を提供することです。教職員は意外と学内外の正確な情報に接していません。『コア』の情報提供のさらなる強化を期待します。

（元執行委員長　吉田正志）

㊗欠号もなく、発行遅延もなく、３００号発行。偉業だと思います。編集を主導する高橋京さんの気力・体力に感服です。みやコアですね。

（現執行委員長　片山知史）

㊗組合書記として35年間、「コア」とともに歩んできました。一色刷りだった紙面はカラーになり、写真も増えて親しみやすくなりましたが、教職員に正確な情報を届けるという役割は今も変わりません。欠号も発行遅延もなく３００号を積み重ねてきた歴代の編集担当者の皆さんに心から敬意を表します。これからも「コア」が教職員に親しまれ、信頼される情報紙として発展していくことを願っています。

（書記　小野寺智雄）

全大教第59回定期大会

軍事研究への懸念

7月11日に、オンラインで開催されました。代議員数77名うち出席が54名でした。

議案（2026年度納入人員、2025年度決算、2026年度運動方針、2026年度予算等）は、全て承認されました。

2025年度の国立大学運営費交付金の本予算の総額は前年度据え置き（1兆784億円）でしたが、補正予算として486億円が措置されました。しかし、2026年度の本予算では前年比わずか188億円の増額（1兆971億円）で、しかも増額分の半分は社会保障費の負担率変更に対応するものです。6月上旬に2026年度補正予算として3兆1135億円が措置されましたが、それらはガソリン代等の負担軽減に充てるもので、国立大学等への運営費交付金は措置されませんでした。

近年、財政状況を理由に人事院勧告にもとづく給与改善を4月遡及としない大学が増加しています。2023年度までの数大学から、2024年度は31大学が適用時期を12月以降や2025年度からとしました。文科省はこうした状況のなか、人件費に充当できる運営費交付金として2025年度の補正予算で措置したものの、25大学（2026年5月時点の判明分）が4月遡及とはならない厳しい状況でした。交渉を重ねて改善を積み上げた単組もあります。2026年の人事院勧告も引上げが予想されるため政府の責任において運営費交付金の増額による財源確保が重要です。

その他、名古屋大学における大学祭への自衛隊ブース出展問題については、大学の教育への政府圧力、組合活動の萎縮、軍事研究解禁といった視点からの問題提起がありました。また新たな問題としては、大学におけるカスタマーハラスメント（学生から教職員へ）がありました。学生との距離感を今一度考えるとともに、そのようなことが生じないような職場づくりが求められます。

組合員の減少が続いており、現在約5000名を下回っています。オンラインでだいぶ経費が削減されていますが、全大教の財政状況は非常に厳しく、今期も単年度赤字であり、数年後には繰越金が無くなってしまう見込みです。各単組が組合勧誘を強く進める必要があることを改めて認識したところです。よろしくお願いいたします。

（執行委員長　片山知史）

ふたたび戦争を繰り返させない集い

日時：8月15日（土）14時～16時

場所：エル・パーク仙台セミナーホール

講師：小野寺義象氏（弁護士）

㊗季刊で発行している「コア」が300号をむかえたことは本当に素晴らしいことだと思います。組合離れ、機関紙離れが進む中、編集委員、組合役員みなさまのご努力に敬意を表します。

「コア」はいろいろな話題を載せると同時にたたかう労働組合の活動を支えています。非正規職員の雇止め問題では、その内容を伝え運動を進めるうえで大きな役割をはたしました。

「コア」がこれからも読者の要求にこたえて発展していきますようお祈り申し上げます。

（日本機関紙協会宮城支部長　斎藤　善勝）

㊗長年にわたり組合の新聞づくりに携わってきました。その間、編集委員会が発足し、公募によって新聞名「コア」も決定しました。

連載「編集委員のちょっとそこまで」では編集委員共通の趣味である山登りをはじめ、遠方で働く組合員を訪ね、理学支部の浅虫海洋生物学教育研究センターや農学部支部の女川フィールドセンターなどを取材しました。地震後の女川では津波被害の実情を見聞きし、冷夏の年には米づくりの現場も取材しました。

「コア」は職場や地域をつなぎ、仲間づくりにかかせない大切な存在です。

（元編集委員　高橋忠雄（工学部支部））

ひきだし

「集団的」な記憶

文科系支部　黒瀬一弘

個人と同様に、国家や社会にも「集団的」な記憶と呼びうるものがあるのではないか？もしそうだとすれば、集団的な記憶は個人の記憶よりも脆いのではないか？最近、よくそう思います。

大国の行動が世界に大混乱を引き起こしています。それは集団的な記憶が失われたからだと考えています。大戦間期の米国は、大国として他国と協調することを知らず、独断的な商業主義に走りました。国際協調を欠くとどれほど世界が不安定になるかを記憶した米国は、第２次大戦後、ヘゲモンとして自らの利益を確実にしつつも他国と協調し、妥協もし、世界の安定化に寄与してきました。

昨今の米国は他国と協調することをやめ、国際関係を「ディール（ｄｅａｌ）」と表現し、商売の延長であるかのように振舞い、大戦間期に回帰してしまったようにも感じます。自国の大戦間期の行動とその帰結を記憶している人々が多くいるにもかかわらず、集団としての米国はその時代に得た教訓を忘れてしまったのです。中国の台頭に直面し、米国に協調を先導する余裕がなくなったことは事実です。しかし、現在の米国の行動が唯一の解決策ではないですし、ましてや賢明な策ではありません。

ある日本人が「もう時代が変わった」と言いました。それは正しい認識ですが、直面した問題への策はほとんどの場合１つではありません。そして、社会は安易な策を選択しがちで、ときに安易であるほど大きな危険を伴います。そうした選択を回避させるのが、個人の理性とは別に存在するいわば「集団的」な理性ではないでしょうか。理性的な個人からなる集団が理性的であるとは限りません。

時代が変わり、大学も大きく変わりました。大学人の集団的な記憶において重要なことを喪失していないでしょうか。大学人の集団的な理性は健全に機能しているでしょうか。

宮城一般女性センター＆県労連女性部共催 バスハイク　7/5
猪苗代湖周辺を訪ねて

宮城県で小学生を過ごした方なら、修学旅行で必ず見学する野口英世記念館を訪ねました。

まさにその修学旅行以来だという参加者もおり、その当時とは違う立派な施設に驚いていました。生家は屋根で覆われ、隣接する展示の内容は非常に充実していて、全てを丁寧に見るには時間が足りず「また今度ゆっくり来よう」と思う参加者も多かったようです。

屋根で覆われていた生家

お昼は向かい側の猪苗代地ビール館で（なんと試飲ビールつきで！）いただき、午後からは隣接する世界のガラス館でエッチンググラス体験をみなさん夢中になってとりくみ、思い出の一品を完成させました。

世界に一つだけのグラス

梅雨時の開催で駆け足の見学体験でしたが、お天気にも恵まれ、非常に充実した内容で40名の参加者は大満足。幹事の方々に感謝の一日でした。

（多元研支部　後藤　洋子）

編集後記

文部科学教育通信「異見交論」に掲載された、国際卓越研究大学制度をめぐる東北大学教員有志の座談会を読んだ。現場との十分な対話を経たのかという疑問、教育と研究の関係、若手研究者への支援など、大学の将来を考える極めて重要な論点が率直に語られている。これは座談会であり、現場からの問題提起である。制度全体の結論ではない。大学執行部の説明や客観的データ、学生・教職員の声などとあわせて今後も丁寧に検証を重ねることが大切だ。大学改革は長い時間をかけて評価される。賛否を急がず、異なる立場の声に耳を傾け、事実に基づく議論を積み重ねる姿勢が、いま大学に求められているのではないだろうか。

（編　O）